



## CONTENTS

### 全国女性建築士連絡協議会 京都大会の報告

女性委員長 大津 千鶴子	2
三八支部 古戸 瞳子	2
青森支部 高樋 忍	3
青森支部 大津 千鶴子	3
三八支部 斎藤 綾子	4

### 第2回 東北ブロック青年大会

青森支部 稲見 公介	5
------------	---

### 被災建築物応急危険度判定士実地研修会

青森支部 松野 幸生	6
------------	---

### 支部だより

三沢支部 立石 幸二	7
青森支部 工藤 淳子	8
南黒支部 野呂 晋一	10
南黒支部 石澤 柳一	11



けんかく

Aomoriken Architects &amp; Building Engineers Association

## 全国女性建築士連絡協議会 京都大会の報告

テーマ 景観まちづくりからコミュニティの再構築へ

～京都で考える 日本のまちと暮らし～

東日本大震災で延期されていた全国女性建築士連絡協議会京都大会に2月17・18日の両日、高樋・古戸副委員長、若手の斎藤さん（三八支部）と4名で参加してまいりました。「はやぶさ」に乗り込み、昼すぎには京都に雪を連れて降り立ちました。

大会一日目は東日本大震災の被災地岩手・宮城・福島県から被災状況と仮設住宅の現状と課題について報告されました。まだまだ復興には時間が掛かりますが、この震災を忘れないためにも心をひとつにしなければと改めて想いさせられました。

そして、基調講演は京都大学大学院工学研究科建築学

専攻教授 高田光雄先生による『京都の景観から考える地域のまちづくり』と題して京都の景観政策と地域のまちづくり活動の流れを、具体的事例を交え、「京町家とそれらを含む京都市都心部の街区とコミュニティの基本構造」「町家を含む景観の保全や再生」などを講演頂きました。翌二日目のフィールドワークには参考になりました。そして、交流会へと～京都の夜の町へ～

大会二日目は分科会＋フィールドワークで8分科会、12コースがありました。これからの活動に繋げられればと思い、それぞれ違う分科会に参加してきました。

（女性委員長：大津千鶴子）

### A-2 分科会

### 伏見～界隈景観整備地区の景観まちづくり

江戸時代から発展した歴史都市・伏見は、当時からの酒蔵や町屋が混在した古い商都で、趣きあるたたずまいの街並みが残っています。「名水」に恵まれ、今現在も古い商店街が健在で、その昔から住みやすい街であり、また、JRと私鉄2線が乗り入れ、京都駅から15分ほどと利便性も高く、「住みたい街」として需要も高く、近年中高層のマンションの建設も進んできたそうです。

そうした中で、「新景観政策」として「伏見南浜界隈景観整備地区」と「近景デザイン保全地区」の指定地区があり、それぞれ形態・意匠の制限や基準が定められてきたそうで、その施策に携わった行政の方の解説を伺いながら景観まちづくりを見学してきました。

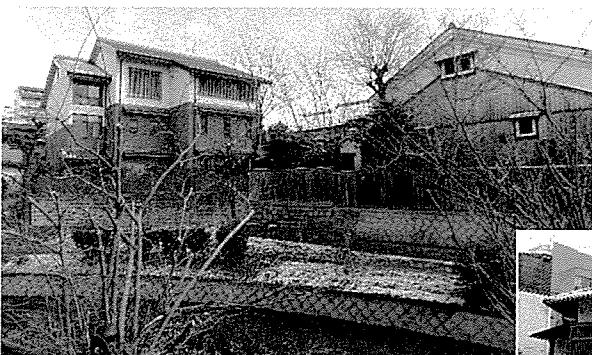
仕事や暮らし方が変化して、まちづくりや住まい方に矛盾が生じ、産業や材料が変化する中で造り方や好まれる意匠にズレが生じ、その共存に温度差があることを今

回のフィールドワークを通じて、肌で感じる事ができたように思います。

美観地区の制限や基準の中でも、「付け庇」や「勾配屋根」等には、どこか取って付けたような違和感を感じたのは私だけではないようでした。しかしながら、統一していこうとする時に何かしらの基準が必要であることにも領けます。

フィールドワークでも意見交換会でも頻繁に登場したキーワードは「伝える」。昔からの暮らしが残る中で、異なる価値観が共存していくためには、古参者が新参者に伝え、またその逆もあり、子供に伝え、自然にまちづくりに関わっていく機会や、守っていこうとする意識が自然に生まれてくる事が大切で、住む街に対する愛着を共有する事なのだろうと、感じてきました。

（三八支部：古戸 瞳子）



▲左:景観に配慮して造られた南浜消防出張所  
右:大倉酒造の酒蔵



町屋に隣接して  
建てられた集合住宅▶



◀条例により、正面のみを  
地区の様式を復元した建物

**B 分科会****〈環境共生住宅〉～環境共生住宅「聴竹居」に学ぶ～ 報告**

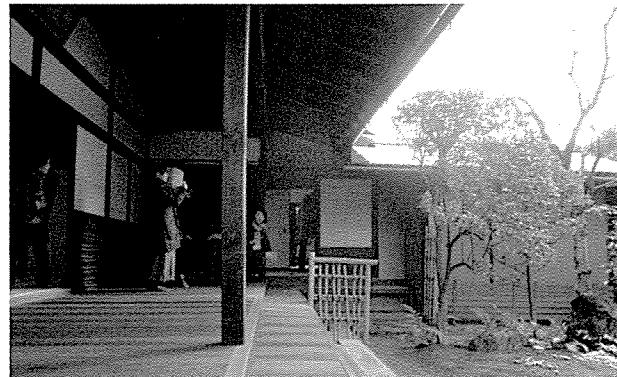
戦後からのスクラップ・アンド・ビルト的な住宅建築に警笛を鳴らし、90年代頃からの「地球温暖化防止計画」を受けて提唱された「環境共生住宅」という考え方は、現代では広く一般的になってきました。しかし、今から80年も前の日本で「環境工学」に着目し、それを実践した藤井厚二の実験住宅「聴竹居」は、一度は見学しておきたい建物。今回、多数の申し込みの難関をかいくぐり見事限定40名の枠に当選し、このB分科会へ参加することができたので、ご報告させて頂きます。

「聴竹居」は、天下分け目の天王山で有名な「天正山崎合戦」が羽柴秀吉と明智光秀の間で戦われ、勝利した秀吉が城を築いた地で古くからの景勝地、大山崎町にあります。「聴竹居」の見学に先立って、ご当地ゆかりの千利休作の唯一現存の国宝茶室「待庵」も見学しました。なお、茶室自体の撮影は禁止で、臨済宗東福寺派妙喜庵の縁側からの外観の一部のみ掲載します。

現在「聴竹居」は、その管理をボランティア団体「聴竹居」俱乐部 (<http://www.chochikukyo.com/>) が担っていて、運営は見学科のみで行っているとのこと。なお、見学に際して原則写真撮影は禁止ですが、常日頃から俱乐部の皆さんと交流のある京都土会メンバーのご尽力で撮影させていただきましたが、それを広く一般に公開することは遠慮願いたいとのことで、写真の掲載は差し控えさせていただきます。

環境共生住宅「聴竹居」は、夭折の住宅作家・藤井厚二（1888～1938）が恵まれた財力を活かして昭和3年に建てた5番目の実験住宅（自邸）です。

日本の伝統的な住まいで経験的に行われてきた日本独特の気候風土に合わせる建築方法を、科学的な目で捉え直した科学的アプローチを駆使したパッシブな建築計画を施した建物に、見学者一同感嘆の声。特に特徴的な南面のサンルームともいえる縁側は、夏の日射を考慮した絶妙の軒の出と、腰回りには床下換気口、妻面には屋根



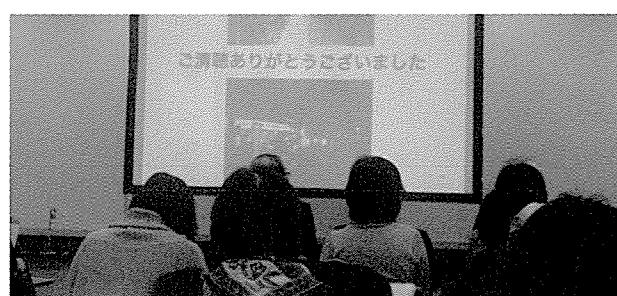
裏換気口などの科学的アプローチに加え、水平を強調しつつ透明感のある連想窓など、洋風と和風とモダンを融合したデザインは必見です。また、昭和初期の住宅とは思えない居間中心のゾーニングと、家族それぞれの居場所を確保しつつも繋がりあえるような目線の高さの工夫は、現代の住まいにも十分に通用できるプランニングです。長期間の欧米視察や、また十代続く造り酒屋や金融業を営む素封家の次男という家庭環境も影響してか、1万2千坪の広大な敷地には、窯やプール、テニスコートとともに小川や滝がある傾斜を生かしたランドスケープの実現と、家具や照明、絨毯、陶器など、ライフスタイル全体をデザインした藤井の実験住宅「聴竹居」は、時代を超えて、いつの時代にも評価される普遍的な日本の住宅だと感じました。その後、離宮八幡宮の社務所で行われたワークショップで参加者との議論を通じて、「聴竹居」について強く感じたことは「取り入れるべき自然と、制御すべき自然のあり方」ということでした。

近代ドイツを代表する建築家ブルーノ・タウトが、「極めて優雅な日本建築」と絶賛したこの「聴竹居」を会員の皆様も一度訪れてほしいと思います。

（青森支部：高橋 忍）

**F 分科会****〈子どもと住環境〉明倫学区～明倫学区の子どもの暮らし今・昔**

F分科会のフィールドワークの明倫学区は平安京以来、京都の商業・経済の中心地で、織物・染呉服の問屋街として、商いと住まいが共存する暮らしがあり、また、室町時代の町衆によってつくられた町組による自治への気風が強く、文化や伝統（祇園祭や地蔵盆）を支えている町を歩いてきました。出発前のレクチャーは旧明倫幼稚園で行われ、吉田家（無名舎）の吉田孝次郎氏から子どもの頃の町家での暮らしや祇園祭のお話を、鯉山町こども会の方から、新しくこの地域に移り住まわれ、古くから住まわれている方々と上手に交流され、町内会を活性化した経緯と今の子どもたちの暮らしを伺いました。



バブル崩壊後、明倫学区はマンションが増え、元住民よりもマンション住民が多いという地域で、風情ある京

町家は減少しまちの景観は様変わりし、一時期は住民の数が減りお祭りの運営も危惧されていたそうですが、マンションの増加と共に住民やこどもたちが増え、コミュニティを再生はじめたそうです。町家からマンションへの個々の住まいは変わっているが、町内会のあり方や昔の伝統を伝えつつ新しい伝統づくりを試している学区でした。これから暮らし方や地域のまちづくりのヒントを頂きました。

午後の分科会は、北海道建築士会から『高校の先生たちとの住教育セミナー』についてと、鳥取県建築士会から『地域での防災学習をサポートしよう』についての活動報告、各県の方との意見交換をしてまいりました。3・11以降、各地域での防災ネットワークについて取り上げられることが多く、『こどもと防災』について考えて行きたいと思いました。  
(青森支部：大津千鶴子)



## H分科会 「集まって住む」に参加して

「集まって住む」をテーマにした分科会。織物の町としても歴史のある京都西陣を訪れ、伝統的な良さを活かし、町屋を再生し、住民意識を高め、まちづくりをしている「まち」を見学してきました。

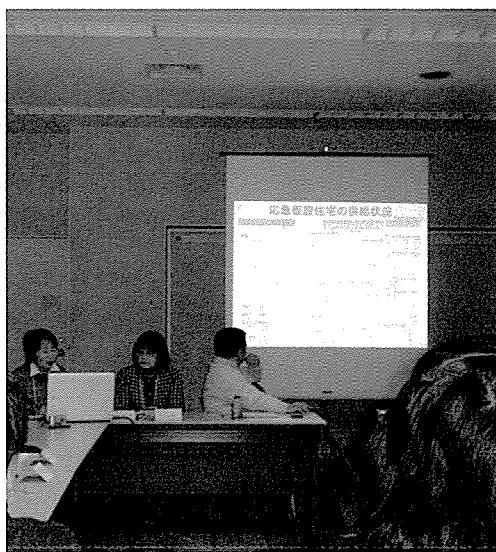
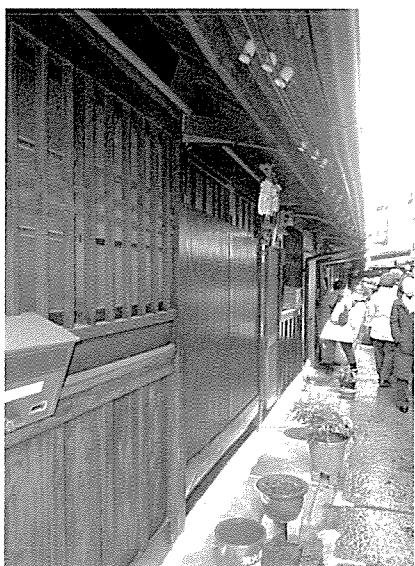
案内をしていただいた「町屋俱楽部」の小針氏より、まちづくりの話を聴き、西陣の町の伝統産業はすべて分業独立により成り立っていたため、家主は技術をもつ職人に家を提供して住まわせ「家賃はタダ同然でよいです。そのかわり良いものを作ってください」という考え方で、職人を住まわせ、職人のまちがつくられていたそうです。

現在もその住まい方が継承され、西陣の町屋にはアーティストの方が住み、そこで創作活動をし、まちの活性にも貢献している方が多くいるそうです。住む人のライフスタイルを主に考え、その町屋・地域での生活を楽し

めるかどうか、ということに重点をおき、まちづくりをしていることを知りました。

フィールドワーク終了後、意見交換会の場では、「集まって住む」のテーマのもと、現状の「仮設住宅」の問題についても話がなされました。岩手県、福島県の仮設住宅では、同じ境遇のもと地域の方が集まり、協力しあい、生活している。断熱材不足、配管の凍結などたくさん問題を抱えながら、お互い支えあいながら生活している。現状の様子をいろいろ聞かせていただきました。

京町屋、仮設住宅と違う形ですが、そこに集まって住むということに関して、「つながる」ことがとても重要と感じました。今回、初めての参加でしたが、全国の方と色々意見交換も出来、とても充実し、たくさんのこと学んだ2日間でした。  
(三八支部：斎藤 綾子)

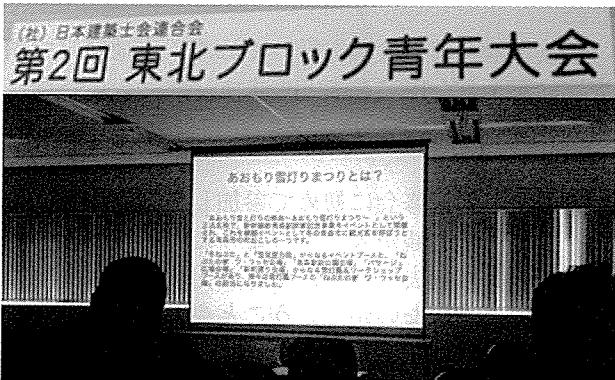


## 第2回 東北ブロック青年大会

### 青森支部 稲 見 公 介

我々青森支部青年委員会の活動の一つ、青森市と一緒に開催している「あおもり雪灯りまつり」。この地域実践活動が青森県大会で1位になり、仙台市で2月18日に行われた「東北ブロック青年大会」で、青森県の代表として我々青森支部が活動内容を発表することになりました。

本来なら、各県の代表6支部がそれぞれの地域実践活動を報告する大会であったのですが…東日本大震災の影響で被災地三県は地域実践活動どころではなく、青森県と秋田県のみが地域実践活動の発表、残りの県は被災地の現状の報告をするという形になり、いつものように発表内容に順位付けもない状況の大会になりました。



青森県はトップバッターで発表。緊張して汗だくになりました。発表後に、他県の方から雪灯籠の作り方を聞かれたりして、内容がうまく伝わったようで安心しました。

他県の発表では、福島県の発表が印象的でスライドなどを作られる状態でなく、マイクのみで発表した震災後の現状…建築士会会員もばらばらで、家族もばらばらで暮らしている状況、一部志願者が放射線量の測定をしている現状など…

福島はまだ、震災のまっただ中にいるのだと痛感しました。

発表は無事に終了し…懇親会になりました。

風の噂で隣の会場に「なでしこジャパン」がくるとかこないとかと耳にしましたが、懇親会準備で一度会場外に出されました。まったくその気配がありません。

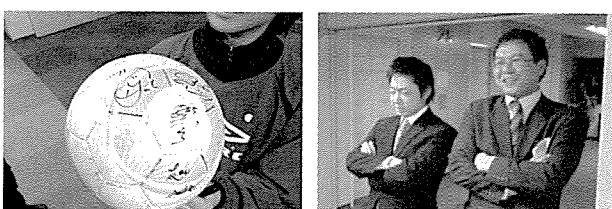
ガセネタだらうなと思いながら、帰りの切符を買いに駅へ行きました。宿泊の方々はそれぞれホテルにチェックインしに行きました。

そして、それぞれが用事をたして戻ってきたら…会場は一変しています。

地元のマスコミが多数いて、スタッフも大勢、シェフ達は走り回り…我々が大会を開いていた会場は活気づいています。

逆に、建築士会が懇親会する部屋は…静かで…しかも宴會の開始30分以上前なのにすでに料理もそろっています…

それもそのはずです。看板には「INAC神戸レオネッサ VS 常磐木学園高等学校チャリティマッチセプションパーティー」の文字が!!



さらに、サインボールを持った子供が走り回っています。

なでしこジャパンではないですが、あの澤選手や川澄選手所属のINAC神戸の選手が会場入りするというのです。

常磐木OGの田中選手、現役高校生なでしこの京川選手はすでに会場入りしています。私たちは会えません(会ってもわからなかった???)でしたが、サインボールを持った子供が色々と教えてくれました。

なぜだか、子供になつかれた青森支部の面々は何時にどこに澤選手達がくるという情報を手に入れて白戸ブロック長と一緒にINAC神戸の選手を待つために懇親会をほっといてでまちしました。一部、山形県建築士会の方も一緒に待って…



川澄選手、澤選手と見事遭遇!! かなり接近して写真も撮って大満足!! 懇親会場に戻ってからは、ヒーローになって他県の建築士会の会員さんにメールで写真を配って親交を深めました。今回はちょっと変わった東北ブロック青年大会でした。

## 被災建築物応急危険度判定士実地研修会

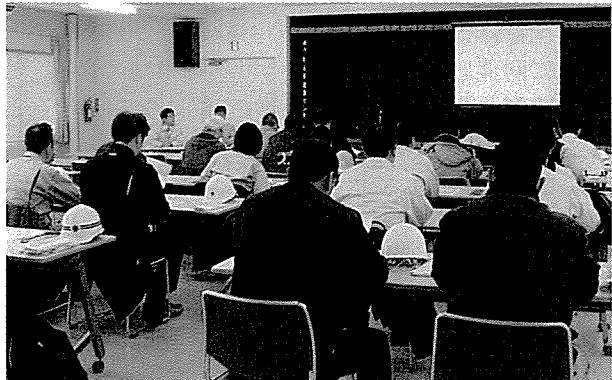
青森支部 松野 幸生

2月13日、ここ数日間の氷点下の寒さから少し解放された気温の中、被災建築物応急危険度判定士実地研修会が開催されました。応急危険度判定士については、5年ほど前の講習会により認定証を取得しており、今年が更新の年でした。昨年の東日本大震災を受け、応急危険度判定士の人員や活動等が必要とされてきているため、今回の実地研修会に参加することにしました。

参加者は10組20名で、応急危険度判定実地研修ガイドンス、被災地建築物の応急危険度判定のビデオ、現地判定訓練、総合判定検討の順で研修が進められました。

まず、講師によるガイドンスで大まかな流れや内容を確認し、次にビデオで判定の様子等を確認しました。

そして、いよいよ現地判定訓練です。今回はRC造の模擬判定ということで、建設会館の1階ロビーと南側外部に被害が発生したという想定で行われました。被害想定の資料を基に、被害発生位置にある写真を確認しながら、判定訓練が行われました。ガイドンスとビデオにより判定方法等は確認していたものの、実際は訓練とは言え、何をどのように行えばよいのかわかりませんでした。そこで、すべての被害想定位置の被害写真を確認し、現状がどのような状況なのかを確認、把握することにしました。すべての想定位置を確認した結果、被害位置とその写真に疑問を感じました。普段の業務で、耐震診断等



を行っていることもあり、同様のプロポーションの柱で破壊形式が異なっていることやひび割れ方がおかしいなど突っ込みながらも現地判定訓練を終えました。

最後に総合判定検討を行いました。現地判定で調査票に記入した内容をまとめます。検討後に講師による解説があり、自分の判定した内容との確認を行いました。

今回、実地研修会に初めて参加し、判定内容には人それぞれの主觀が入ってしまうため、統一性を図ることからも過去の被害による判定資料集のようなものが必要ではないかということや、訓練の段階で何をどうすれば良いのかわからなくなってしまえば、実際の被災地では足手まといになってしまう可能性があり、これにはより多くの経験が必要となってくるのではないかと感じました。今後、他構造の建築物を想定した実地研修会があれば、参加してみたいと感じました。



**支部だより**

三沢支部 by 立石 幸二

**私の「原子力(atom)」メモ**

アトム

核実験による放射性物質を含んだ塵や雨が降り注いでいた(注※)昭和30年代、恐竜が水爆実験で巨大化して現代に出現した映画「ゴジラ」が生まれた。40年代、茨城県東海村で日本初の原子の灯がともり、原子力の平和利用のシンボルとして、アニメ「鉄腕アトム」が放映された。

昭和20年8月、広島・長崎に人類初の兵器として使用され、今は地球温暖化対策のエネルギーとされる原子力発電の、そも「原子力」とは何なのか。私なり(継ぎ接ぎだらけながら...)のメモである。

1. 物質(物)を分割していく時、その性質を保ったままでいられる最小単位が原子(atom)。ギリシャ語の「分割できないもの」が語源という。
2. 原子は、原子核とその周囲を回る“電子”とからなり
3. 原子核は、プラスの電荷をもった陽子と電荷をもたない“中性子”からなる。原子の質量(重量)の99.9%は原子核にあるという。

例えれば…

- 1) “原子”を東京ドームを二つ合わせたドラ焼きのような大きさとすれば、“原子核”はピッチャーマウンドに転がるパチンコ玉ほどのサイズで、その周囲を電子が回っている。ただ現代科学の粹をもってしても原子の形を見た人は誰もなく、その形は球状の(電子の)雲のようなものと考えられている。
- 2) “原子核”はパチンコ玉の中の砂粒程度の陽子と中性子からなってなる。
4. ウラン(U)：地球上に存在する最大の原子。原鉱石にふくまれている天然ウランの中には核分裂する「ウラン235」が約0.7%含まれていて、核燃料として使用されている。
5. プルトニウム(Pu)：ウラン238に中性子を衝突(吸収)させて人工的に作られた原子で、天然には(殆ど)存在しない。半減期は2万4360年(ウラン238は44億6800万年)で科学的に猛毒。ウラン235に代わる核燃料で、原爆に使用され核分裂すると、同時に中性子を出して連鎖反応を起こす。

プルトニウムは比較的簡単に核兵器に転用でき、日本はその疑惑を受けないため、余剰プルトニウムの全量を高速増殖炉や軽水炉で使い切ることとしている。

#### 6. 核分裂(原爆・原子炉)・臨界

ウランの原子核に中性子が衝突(吸収)すると核分裂(原子核の破壊)がおこり、さまざまな核分裂生成物(多くは放射性原子核( $\beta$ 線、 $\gamma$ 線))。死の灰ともいいうと膨大なエネルギー、そして中性子が放出される。

通常の自然界では起こらない分裂(核反応)を意図的に起こし兵器としたものが核爆弾であり、この核反応を人為的に制御(臨界を保つ)し、連続的に発生(連

鎖反応)させて、その熱エネルギーを電気エネルギーに換えて利用する装置が原子炉。(原爆は核分裂で、水爆は核融合による)

核分裂物質がある一定量を超えて、核分裂が更なる核分裂を誘発し、勝手に連鎖反応を起こす境い目を“臨界”といい、平成11年(1999)茨城県東海村のJCOで起きた臨界事故はこれによる。この臨界を実験によりおこない“臨界に達した…”などとニュースで耳にすることがある。

ちなみに、ウラン1グラムの核分裂によるエネルギーは石炭3トンが燃えた場合に相当し、広島の原爆は、80%に濃縮したウラン235が75kg使用され、実際に爆発したのはわずか1kgといわれる。

#### 7. 連鎖反応の制御(コントロール)

中性子を 1) 水素と結合させてスピードを減速させる。一般的の商業用の原発はウランを燃料とし減速材や冷却材として大量の「水」が必要なため海岸などに建設され、普通の水(軽水)を用いるため軽水炉という。

中性子が水素とどんどん結合し、“原子”内にその量が増えて限界に達することで水素爆発する。

2) 制御棒(カドミウム合金・炭化ホウ素など)により核反応で発生した中性子を吸収して連鎖反応をコントロールする。

#### 8. 使用済み核燃料・再処理

3年ほど燃やしたウランの、核分裂生成物とプルトニウムが約1%の状態を“使用済み核燃料”といい、溶かしてプルトニウムと燃え残っているウラン・核分裂生成物などに分離することを“再処理”という。

#### 9. 核燃料サイクル計画

##### 1) プルサーマル

再処理で取り出したプルトニウムを再び軽水炉で燃やすこと。プルはプルトニウムの略で、サーマルは熱。

##### 2) 増殖原子炉

プルトニウムを燃料として、消費したより多量のプルトニウムを生み出させる(増殖)原子炉。日本唯一の福井県敦賀市の「もんじゅ」は平成7年(1995)のナトリウム漏れ事故以後、停止中のまま。

##### 3) MOX(混合酸化物)燃料

再処理で取り出した酸化プルトニウムとウラン酸化物を混合して核燃料としたもの。日本原燃は六ヶ所村に年間生産量130トンのMOX燃料工場を建設中で、同じく建設中の大間原発はこのMOXを燃料とする。

太陽から降り注ぐ放射線( $\gamma$ (ガンマ)線・紫外線等)はオゾン層に吸収され、地球内部からの微量な放射性物

質は、温泉好きな日本人にラジウム温泉・ラドン温泉として親しまれている。太陽も地球も巨大な“原子炉”なのだという。

毎日タバコ20本の喫煙は年間100ミリシーベルトの被曝に相当するといい、放射線を恐れハワイに逃げて真っ黒になる紫外線のはうが要注意なのだという。

野菜不足によるガン死亡のリスクは100ミリシーベルトの被曝に相当。塩分の取りすぎは約200ミリシーベルト、運動不足や肥満は400ミリシーベルト程度、毎日3合以上の飲酒でガン死亡するリスクは約2倍になり200ミリシーベルトの被曝に等しいとされ、100ミリシーベルト以下の被曝では人体への影響は確認されていないという。

暫定規制値（安全基準）ギリギリの食品ばかりを毎日食べるとどうなるか。東京工業大学助教授（原子核工学）澤田哲生氏の試算によると、1日13マイクロシーベルトくらいのセシウムを摂取し、365倍すると食品安全委員会が定めた年間規制値5ミリシーベルトを少し下回る。

『放射線を侮ってはいけないが、こわがってもいけない』という。

使用済み核燃料も、再処理したあとの残渣（残りカス）も放射線を出し続けている。使用済み核燃料は年間1000トン発生し、六ヶ所の再処理工場の処理能力は年間800トン。しかしそれらの“最終処分場（地）”は未だ決まっておらず“トイレのないマンション”といわれる所以である。「脱原発」に舵を切ったとしても、超長期計画なスタンスが必要なのである。と同時に、国の安全保障を考える時、脱原発には問題がある…との意見があ

ることも忘れてはならないだろう。

（注※）放射性物質の降下量が最も多かった昭和38年（1963）の世界の平均積算量は1560ベクレル／m<sup>2</sup>（国連の科学委員会）。

このベクレルをシーベルトへ換算した外部・内部被曝の合計は0.025ミリシーベルト程度。すべての核種を考慮すると0.14ミリシーベルト程度。

今年、セシウム137の3月19日から31日までの積算値をシーベルトに換算すると、ひたちなか市0.43ミリシーベルト、東京0.11ミリシーベルト。昭和38年に比べてひたちなか市の数値が大きいのは降雨などの局所的なものという。ちなみに、昭和38年東京でのセシウム137の積算値は1935ベクレル／m<sup>2</sup>で、同程度のものが日本国中に10年以上にわたって降り注ぎ、私もそれを浴びていた1人である。

ベクレル（放射線量）：1秒間に何個の放射線が放出されるかをあらわした数値

1秒間に1個の放射線が放出される状態を1ベクレルという。

シーベルト（線量当量）：人体に対する放射線の害をあらわす数値の単位。

シーベルトでは単位として大きすぎるので1000分の1のミリシーベルト、さらにその1000分の1のマイクロシーベルトを用いることが多い。

参考資料：齋藤勝裕著「知っておきたい放射能の基礎知識」サイエンス・アイ新書、朝日現代用語「智恵藏」朝日新聞社、新潮社 週刊新潮 特集記事 他。

## 支部だより

青森支部 by 工藤淳子

## 『あおもり雪灯りまつり』

「あおもり雪灯りまつり」は、東北新幹線新青森駅開業を機に、冬の観光を盛り上げようと始まったイベントで、今年で2度目となります。青森支部では、昨年の第1回開催時、青森市観光課からの協力要請を受けてお手伝いしましたが、今年は地域貢献活動としての助成金をいただいたのであります。

まつりの開催は平成24年2月3日～5日の3日間、時間帯は17:00～21:00で、会場は、「青森駅前公園～ワ・ラッセ～アスパム～新町通り」となっており、我が青森支部の担当は、昨年と同じワ・ラッセ西の広場でした。

制作は開催の1週間前から始まりました。1月29日（日）は晴天で、絶好の灯籠づくり日和となりました。昨年の経験者は慣れた手つきで、皆さん灯籠製作マシーンと化し、ものすごい勢いで作っていきます。「とりあえず100個作ってください」「もう100個いったよね…あと何個作ればいい？」「じゃあ、あと100個作ってください～」



と言われてからが、長いこと長いこと（汗）、尋ねる度に「あと100個」「あと100個」と永遠にカウントダウンしていかないのでした。結局500個以上は作ったのではないでしょうか。会員の皆さん（中には一家総出で参

加してくれた方も) や、ボランティア参加の市民の方々のおかげで、作業は順調に進み、この日は当初の終了予定18:00のところを15:30で解散。

昨年は、初めてということもあり何もかも手探り状態でしたが、今年は市役所の担当の方の表情にも余裕が見られます。昨年と比べて良かった点は、制作から開催日までの間、この「寒冬」のお陰(?)で、灯籠が日中溶けることなく、開催まで補修がほとんど必要なかったことでした。

いよいよ開催当日2月3日(金)となりました。気温が低いせいか、相変わらずチャッカマンのつき具合が良くないのですが、昨年の経験から、中に入れるキャンドルのサイズが大きくなり、全ての灯籠に灯りがともると、会場はとても良い感じになりました。初日は平日ということもあり、人出はさほどではありませんでしたが、訪れた方々が、支部制作のリンゴのモニュメントの中に入り、記念写真をしていかれました。

メンテナンスの合間に、皆で他の会場を回っていました。アスパム会場では、スタッフの特権で13階の展望台から、LEDのカラフルなイルミネーションを楽しみ、駅前広場では、浅虫温泉の手湯に浸かり、板かりんとうの食べ比べと田酒の甘酒に酔いしれ、とスタッフながらしっかり楽しんでしました。

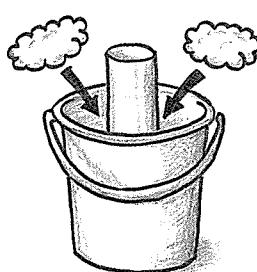


ところが、一番盛り上がるはずの翌4日(土)は、なんと猛吹雪! キャンドルに点火するも、点いたそばから消えていく…観光客もまばらとなり、半分あきらめムードが漂う中、くだんの灯籠製作マシーンYさんの「紙コップの中にキャンドルを入れてみたらどうか?」という一言で一転、近くのコンビニで材料をゲットし、ようやく灯りをともすことができました。その後、紙コップではなくプラコップの方が良いとか、コップに着色したら色がうつって映えるとか、アイディアが泉のごとく湧き出てきて、来年は更にバージョンアップかも? (既にデフォルトでやる気満々) という雰囲気になり、後始末の後は、駅前の井戸端(もつ煮)で、みな達成感に浸ったのでありました。

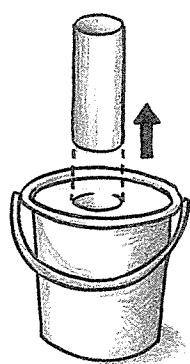
さすがに体力が続かず、最終日は参加しませんでしたが、聞くところによると大成功だったようでした。事前の制作作業や当日の点火・消灯・メンテナンスなど、お手伝いしてくださった皆さん、本当にありがとうございました。

最後に、雪灯籠の作り方をお教えしましょう。この記事が掲載される頃には、もしかしたら雪はほとんど残っていないかもしれません、それほど難しくないので挑戦してみてください。5~6個作ってまとまるとなかなかいいムードになりますよ。そして、その勢いで来年の雪灯りまつりには、ぜひスタッフとして参加して頂けることを、切に願っております。

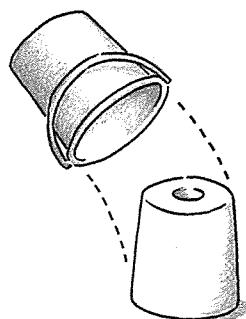
- 1** バケツの真ん中に塩ビ管(直径10cm位で長さはバケツの深さより長いもの:一升瓶でも可)を立て、水を加えシャーベット状にした雪を上まで入れ、しめ固める



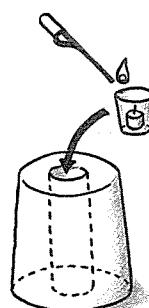
- 2** 塩ビ管を抜く



- 3** 設置場所にバケツを逆さにして、外す



- 4** 紙コップなどにキャンドル(アロマキャンドルのような形がgood)を入れ、中央の穴の底にセットして点火(後始末は確実に!)



**支部だより**

南黒支部 by 野呂晋一

**こんな環境にやさしいお家があつたらいいな！コンテスト**

南黒支部みらいのまちづくり委員会は、今年も地域貢献活動の一環として、「こんな環境にやさしいお家があつたらいいな！コンテスト」を実施しました。黒石市内の小学校10校に募集したところ、784点の応募がありました。ご協力に感謝いたします。

- ・1月23日 各小学校より絵の回収
- ・1月26日 スポカルイン黒石の大会議室を借りて審査  
毎年の事ですが、たくさんの作品の中から数点を選ぶという事は大変な作業です。  
ついつい説明文に読み入ってしまい、タイムオーバーすることもしばしば…

設けた賞は低・中・高学年別に、金賞1名、銀賞2名、銅賞5名、特別賞5名とし、表彰状と図書カードがもらえます。小学生にとっては、魅力的な副賞だと思いますか？

- ・2月10日 アクロスプラザ黒石に全ての作品を展示  
協力してくれる賛助会員も手馴れているのでスムーズに終了
- ・2月12日 同会場にて表彰式を行い作品や展示パネルを撤去して完了  
会場では、入賞作品の前で嬉しそうに写真を撮っている親子の姿が印象的でした。  
また、撤去作業では枚数が合わなくなり何度も数え直しました。例年の如く…

今年の作品は、「環境」がテーマという事で、エコ・リサイクル・クリーン・グリーンという言葉が目に付きましたが、中には「放射線から守りながら…」という作品もあり、原発事故のあった昨年を象徴している様に思いました。このコンテストは、家族で地球温暖化やエコロジーについて考える良い機会になったのではないかと思います。環境について、親は子の、子は親の考え方を

お互いに分かり合えたのではないでしょか。

最後になりますが、この活動も平成13年から始まり11年目になりました。長い間協力して頂いた学校関係者及び建築士会会員、そして設営に協力していただいた賛助会員の皆様にお礼申し上げます。

有難うございました。

『本当に、ありがとうございました。』



**支部だより**

南黒支部 by 石澤柳一

**親子で挑戦!「重要文化財・高橋家住宅」ペーパークラフト制作**

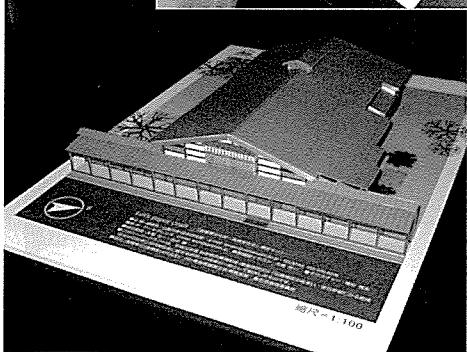
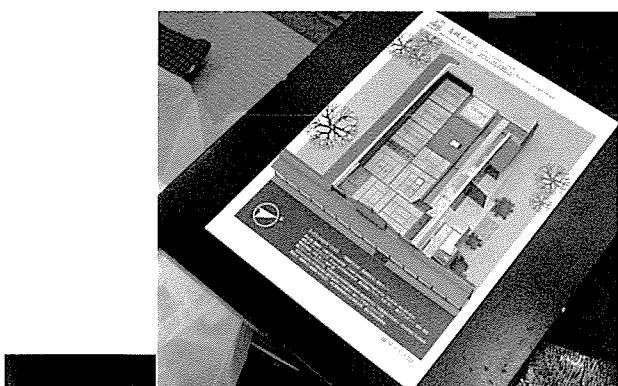
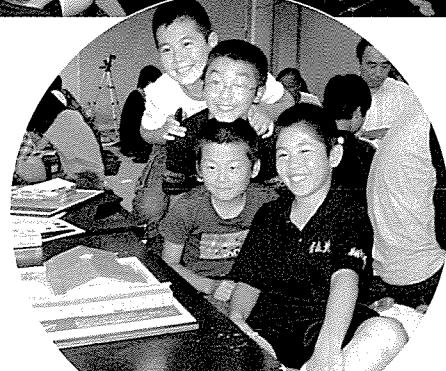
山梨大学教育人間科学部の田中勝教授が開発した黒石市中町の重要文化財・高橋家住宅のペーパークラフトを親子で制作する催しが、昨年の9月、建築士会南黒支部の主催で開かれ、親子が力を合わせて完成させました。

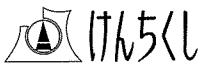
田中教授は、伝統的建造物群の住まい、まち学習に見る地域住文化の伝承と世代間交流に関する研究を続け、何回となく黒石市を訪問し、研究成果として教材となるペーパークラフトと副読本を完成させました。

重要文化財・高橋家住宅のペーパークラフトを制作する事により、子供たちに黒石市の歴史的財産である伝統

的建造物群やこみせのすばらしさを知ってもらう目的で開催され、黒石小学校の児童と父母、南黒支部や弘前大学からも参加し、高橋家住宅を30分ほど見学した後、会場を中町のレストラン御幸の2階広間に移して制作を開始しました。

カラーで印刷された高橋家住宅の展開図イラストをカットして組み立てる方法ですが、カッターナイフを使い慣れていないためか、悪戦苦闘しながら何とか完成させていました。中には、とても真剣な表情で組み立て、制作していた児童のお父さんもいました。





## advertisement

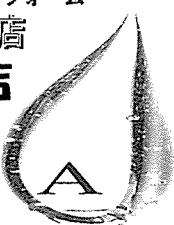
高気密・高断熱 現場発泡ウレタンフォーム

アクアフォーム施工代理店

株式会社 小池銘木店

青森市堤町2丁目1-19

N I P P O N  
A Q U A



OA機器・事務用品・事務機器・スチール製品

事務機・事務用品のご用命は

**オフィスバリュー マルキ**  
Let's Access maruki-ov.com

[青森店]

〒030-0845 青森市緑3丁目10-27

TEL 017-775-7551 FAX 017-775-0188

[五所川原店]

〒037-0076 五所川原市大字小曲字沼田97-57

TEL 0173-38-3102 FAX 0173-38-3103

[弘前店]

〒036-8042 弘前市大字松ヶ枝5丁目7-5

TEL 0172-29-3886 FAX 0172-29-3883

[弘前南店]

〒036-8154 弘前市大字豊原2丁目3-1

TEL 0172-39-4015 FAX 0172-39-4042

ハイタフシート防水・エックスロン防水

三晃金属工業株式会社  
**Sankō**

青森営業所

青森市浜田玉川352 木村ビル3F-B号

☎ (017) 762-3335

総合防水工事



日新建工株式会社 東北支店

青森出張所

所長 荒木 清貴

青森出張所 青森市本町4丁目2-16(ヤマイシ本町マンション1F) 〒030-0802

TEL 017-762-7495 FAX 017-762-7496

E-mail kenkou-ao@gol.com

東北支店 仙台市青葉区昭和町4番9号(カーサ北仙台201号) 〒981-0913

TEL 022-273-1921(代表) FAX 012-273-1939

E-mail kenkou-t@mba\_sphere.ne.jp

【業務内容】

- オフセット印刷  
(ポスター・ラシーパフレット・リーフレット・記念誌他)
- 企画・デザイン
- フォーム印刷  
(OCR・帳票・メールシーラー)
- PDF・CD-ROM製作



第一印刷株式会社

青森市石江字江波3-1 〒038-0003

tel 017-782-2333(代) fax 017-781-9153

e-mail: diikg-1@abeam.ocn.ne.jp

希望の明日へ笑顔でチャレンジ

**吉田産業**

青森・五所川原・弘前・八戸・むつ

ISO 9001 JMAQA-831 ISO 14001 JMAQA-E409

創立 129 年



建設から暮らしまで……

**カクヒロ**

代表取締役社長 小田桐 健藏

株式会社 角弘 〒030-8543 本社/青森市新町二丁目5番1号

会社 Tel.017-723-2222(代) Fax.017-723-2224

ホームページアドレス <http://www.kakuhiro.co.jp/>



電気工事設計・施工

電気に関しては「けんちゃん」にお任せ下さい  
納得いくまで相談に応じます  
安全で楽しい生活をしましょう！

「けんちゃん」とは我が社の電気技術者のことです  
「受電用キュービックル点検業」もしています

株式会社 電設工業社

代表取締役 今川 銀子

〒030-0802 TEL 017-775-2528 FAX 017-776-1057

電気と共に

地域の発展に貢献する

— 総合電気設備工事設計施工 —

**協和電気株式会社**

代表取締役 木村 賢  
社長

青森市吉川2丁目18番9号

☎ (017) (代表) 776-8151 FAX (017) 776-8155

**(株)向後鐵工所**

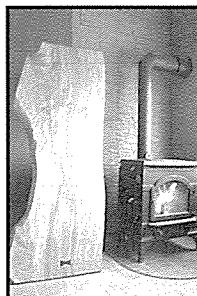
代表取締役 小笠原 清次郎

青森市大字油川字柳川28番地

本社 第1工場 TEL 017-788-7191

FAX 017-788-7899

E-Mail [kogo-tekkosho@eco.ocn.ne.jp](mailto:kogo-tekkosho@eco.ocn.ne.jp)



建築材・建具材・新材・住器・サッシ

**(株)かさい材木店**

〒036-8094 青森県弘前市外崎5丁目8-2

TEL 017-227-6212

FAX 017-227-6248

e-mail [j\\_abo@kasaizaimokuten.jp](mailto:j_abo@kasaizaimokuten.jp)

URL <http://www.kasaizaimokuten.jp>

カー ポート・網戸張替・ガラス修繕

薪ストーブ事業部 無垢板事業部

(ファイヤースタジオ) (ムグ)

**FireStudio mugu**

サインプラン お手伝いします！



“LED”が彩る ECO サイン推奨

■本社 弘前市神田2丁目4-20 ☎ 0172-34-6661  
 ■青森営業所 青森市古館1丁目10-8 ☎ 017-741-1383  
 ■八戸営業所 八戸市宇上田面木28-2 ☎ 0178-23-5030  
 ■大館営業所 秋田県大館市宇部垂町33-2 ☎ 0186-45-1516  
 ■神田工場 弘前市神田3丁目3-33 ☎ 0172-34-9571

信頼の技術で地域の発展に奉仕する

HITACHI  
株式会社 奥羽日立  
弘前営業所

〒036-8061 弘前市大字神田一丁目8-9  
0172-32-4365 (代)



建築設計施工・鉄骨・金物工事一式  
水門・ラック・中二階工事一式

有限公司 弘青鉄工建設

〒036-8126 青森県弘前市大字松木平字富永141-1  
TEL (0172) 88-1606~7 FAX (0172) 88-1608

塗料全般・附帯設備設計  
塗装機器・保安用品

有限公司 林塗料

〒036-8057 弘前市大字八幡町1丁目6の8  
TEL 0172(代)(36)4750  
FAX (36)4716

健康・快適&エコ住宅

ヒートポンプ電化の暮らし!



弘前営業所  
お客さま提案グループ

弘前市本町一番地 TEL 0172 (32) 0336



エレベーター・ホームエレベーター・ダムウェーター・階段昇降機・段差解消機

株式会社 クマリフトコーポレーション

青森営業所・八戸出張所

〒031-0081 八戸市柏崎一丁目19-1  
TEL (0178) 45-8734 FAX (0178) 44-2801  
URL http://www.kumalift.co.jp/

人と環境に優しいペイントの販売  
3,000色以上によるカラーコーディネート  
ペイント施工のお手伝い

カラーワークス青い森

八戸市卸センター1-8-8 佐々木塗料㈱内  
TEL 0178-20-1038 E-mail:info@colorworks-aoimori.jp  
http://www.colorworks-aoimori.jp

電灯・動力設備・受変設備  
防災設備・設計・施工

三和電業株式会社

代表取締役 小笠原 雅昭

〒031-0003 八戸市吹上一丁目9-5  
☎(0178)43-6002(代)・FAX 43-3486

■仮設工事はお任せ下さい！材工にて承ります。

住宅の新築、リフォーム足場・塗装、板金工事用足場・基礎足場・内部足場・中高層足場・解体養生足場  
ローリングタワー施工・棧敷施工・シート養生・仮設ステージ施工・仮囲い工事全般 etc ...

仮設トイレリース・他現場備品リース承ります

現場用イメージシート・のぼり製作承ります

工事現場への自動販売機の設置紹介致します

有限公司 セーフティー

〒031-0023 八戸市大字是川字ニツ屋6-60 TEL 0178-85-0433  
URL: http://www4.ocn.ne.jp/~safty/ FAX 0178-85-0443

アスベスト(石綿)処理工事

～建設技術審査証明(建築技術)「TCAアスベスト工法(除去工法)」取得～



株式会社 テクノ中央

本社/八戸市新井田字重地下51-12 TEL 0178-25-6789  
営業所/青森・久慈・仙台  
ホームページ/ http://www.techno-chuo.jp/

各種CAD出力・デジタルファイリング・DXF変換サービス  
大型カラーコピー・大型電子コピー・各種第二原図  
青写真・マイクロ写真・各種製本・カラースキャニング

(有)弘前光学資料

〒036-8161  
青森県弘前市大字大清水四丁目12-2  
TEL 0172(87)3355・FAX 0172(87)6860  
E-mail kougaku@technowave.ne.jp

”夢,, ある住宅設計のお手伝い

十五番建材株式会社

代表取締役 長内 強

南郡藤崎町豊田61-3 TEL (75)2015/FAX (75)2840



信頼と技術で地域に貢献します。  
土木建築鉄筋工事業



**有限公司 M・A・B**  
(旧社名 (有)東鉄筋)

代表取締役 東 慎治

〒037-0014 五所川原市大字稻実字開野69-1  
☎ 0173-34-9166(代) FAX 35-0270

土木一式工事請負・解体工事一式・再生碎石販売・足場架設工事・  
コンクリートはつり工事・産業廃棄物中間処理・産業廃棄物収集  
運搬・特別管理産業廃棄物収集運搬・一般廃棄物収集運搬



**特定建設業**  
**株式会社 坂本光組**

代表取締役 坂本 光雄

青森県五所川原市飯詰字清野85の1  
TEL (0173)37-2301・(0173)37-3737 FAX (0173)37-3535

## 野呂木工所

家具・建具一級技能士

代表 野呂 恭悦

青森県西津軽郡深浦町大字麿木字鶴緑40-3  
TEL 0173-74-3974 FAX 0173-74-3581

統合マネジメントシステム  
ISO9001・OHSAS18001・ISO14001・ISO45001・品質・安全部門・ISO9001・OHSAS18001・ISO14001・ISO45001

快適な環境を創造する

**田中建設 株式会社**  
本社 青森県十和田市東一番町2-50  
URL <http://www.tanaka-net.co.jp/>

いよいよ 総合建設業  
**鈴木建設工業株式会社**

代表取締役社長 花田 仁  
e-mail:info@suzukikensetsu.co.jp http://www.suzukikensetsu.co.jp/  
〒033-0062 青森県三沢市新町三丁目31番地2201  
Tel:0176-53-3078 Fax:0176-53-9800

### ●産業廃棄物処理

●解体工事 木造住宅からコンクリート構造物まで

●土盛・造成・赤土黒土販売

**(株)東通運輸** むつ市大曲3-13-8  
TEL(0175)22-3911 FAX22-3917

リサイクルセンター TEL (0175) 26-2911

建築・製作金物・水門・土木鋼構造物金物・ステンレス  
スチール・アルミ特殊加工・精密板金試作・プレス加工



**キクチ製作所**

五所川原市栄町21

TEL 0173(34)2570 FAX(35)7082

埼玉工場 三郷市戸ヶ崎2-233-8

TEL 0489(55)4470

日本塗装工業会・信頼・安心の「保証書付き」住宅塗り替えシステムです。



## 稻見塗装店

深浦町北金ヶ沢 (事) TEL・FAX 76-3064 (自) TEL・FAX 76-2676



社会の「和」を大切に地域と共に歩みます。

## 丸井重機建設株式会社

本社／青森県十和田市大字三本木字千歳森357-1  
TEL 0176-23-4211 FAX 0176-23-4939  
<http://www.marui-jk.co.jp>

–技術と誠意で奉仕する–  
ISO9001/OHSAS18001 認証取得



**上北建設株式会社**

本社／青森県十和田市穂並町2番62号  
TEL 0176-23-3511(代) FAX 0176-23-3510



特定建設業許可(特-23)第4944号  
ビル管理・土地・建物販売業 免許青森県知事(2-3153)

## 株式会社 佐藤工務店

三沢市南町2丁目31の163号  
TEL 53-5332代表・FAX 57-3330

Live with your dream...

**(有)松浦建設** まつうらホーム

松浦一級建築設計事務所

むつ市柳町4-12-25 TEL 0175-22-5809

**各市町村上下水道指定工事店**  
水洗トイレ、水廻りリフォーム、ロードヒーティング工事  
**水の事ならなんでもご相談下さい。**

**有限会社 昭和管工**  
〒035-0086 青森県むつ市大湊上町21-2  
TEL 0175-24-1728 FAX 0175-24-1666  
Email - syouwa-k@hyper.ocn.ne.jp

1級建築士 設計事務所

**株式会社 前川原工務店**  
新築住宅・各種改修工事・その他

〒 035-0083 青森県むつ市大平町1番17号  
Tel 0175-24-1718 Fax 0175-29-3767

日本塗装工業会会員 全日本屋外広告業団体連合会会員  
青森県塗装事業協同組合員 三晃金属塗装施工班

**株式会社 マルシン塗装看板店**  
代表取締役 佐藤邦夫  
〒039-3131 青森県上北郡野辺地町字野辺地313  
TEL 0175-64-2829  
FAX 0175-64-2890

平成24年度  
**一級/二級/木造建築士定期講習のお知らせ** (4月2日から受付)

開催日：平成24年6月13日(水)  
会場：青森県観光物産館アスパムにて開催  
(100名)

● ● ● 平成24年度 建築士試験日程 ● ● ●

● 学科の試験

試験の種類	試験日・場所	時 間 割		
二級建築士試験	7月1日(日) 青森工業高校	9:45~10:00 (15分)	注意事項等説明	
		10:00~13:00 (3時間)	学科Ⅰ(建築計画)及び学科Ⅱ(建築法規)	
			休憩 (1時間)	
木造建築士試験	7月22日(日) アスパム	14:00~14:10 (10分)	注意事項等説明	
		14:10~17:10 (3時間)	学科Ⅲ(建築構造)及び学科Ⅳ(建築施工)	
一級建築士試験	7月22日(日) アスパム	9:30~ 9:45 (15分)	注意事項等説明	
			学科Ⅰ(計画)	20問 建築計画、建築積算等
		9:45~11:45 (2時間)	学科Ⅱ(環境・設備)	20問 環境工学、建築設備(設備機器の概要を含む。)等
		(45分)	休憩	
		12:30~12:55 (25分)	注意事項等説明、法令集チェック	
		12:55~14:40 (1時間45分)	学科Ⅲ(法規)	30問 建築法規等
		(20分)	休憩	
		15:00~15:10 (10分)	注意事項等説明	
		15:10~17:55 (2時間45分)	学科Ⅳ(構造)	30問 構造力学、建築一般構造、建築材料等
			学科Ⅴ(施工)	25問 建築施工等

※解答に当たり、適用すべき法令については、平成24年1月1日現在において施行されているものとします。

● 設計製図の試験

試験の種類	試験日	時 間 割			場 所
二級建築士試験	9月9日(日)	共	10:45~11:00 (15分)	注意事項等説明	青森工業高校
木造建築士試験	10月14日(日)	通	11:00~16:00 (5時間)	設計製図	
一級建築士試験	10月14日(日)		10:45~11:00 (15分) 11:00~17:30 (6時間30分)	注意事項等説明 設計製図	青森工業高校

平成24年度 社団法人青森県建築士会北五大会のお知らせ

開催日：平成24年7月7日(土)・8日(日)

会場：記念式典(大会式典) ホテルサンルート五所川原

# のへじ停車場 ランタンまつり

「のへじ停車場(てしゃば)ランタンまつり」は、例年2月上旬に行われている野辺地地区の冬季のまつりとしては最大のまつりです。

野辺地駅隣りの「野辺地町観光物産PRセンター」前広場を会場に行われます。

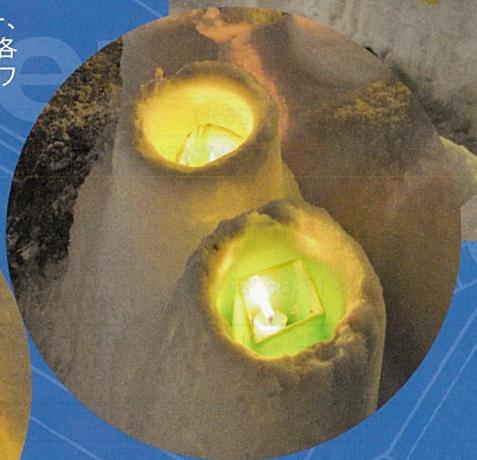
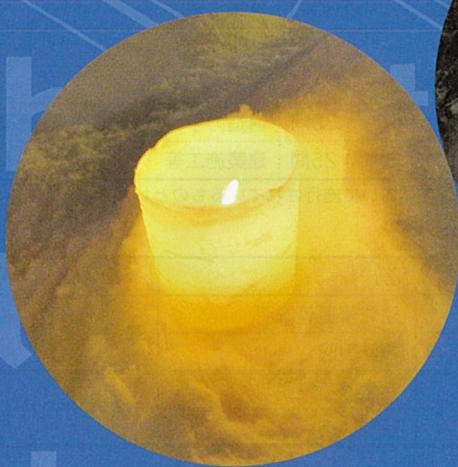
今年も、2月4日(土)に開催されました。



## ※「野辺地町観光物産PRセンター」…

野辺地駅より徒歩1分、年中無休、無料駐車場あり（ただし、夜間は閉鎖）

特産品の展示・販売コーナー、喫茶店、休憩コーナー、会議室、観光案内所、トイレなどがある観光拠点施設（各種展示会、イベント等も可能）。最近地元で話題の「カワラケツメイ茶」製品なども扱っている。



No.151

情報・広報委員会

[委員長] 飯田善之(青森)、大谷政彦(中弘)、大屋肇(三八)、石澤柳一(南黒)、白川和真(北五)、野呂拓也(西)、平野公彦(十和田)、三上宗一郎(三沢)、平野伸(下北)、姥沢英幸(野辺地)、四戸栄治(野辺地)

事務局  
印 刷

(社)青森県建築士会 TEL 017-773-2878 FAX 017-723-7105  
第一印刷(株)